



ICT活用場面

7～9年(中1～中3)
保健体育科
「バスケットボール」
(全10時間扱い)

準備するもの

電子黒板 作戦ボード
三脚(タブレット用) タブレット
Chromecast(無線でタブレット画面を電子黒板に映す)

インターネットの利用

有

ICT活用のメリット

協働での意見整理

3対2の練習をタブレットのタイムシフトカメラ(20秒遅れ)で撮影し、プレイ後すぐに自分たちの動きを確認する。何故シュートできなかったのか、どのようなパスが適切だったか考えやすい。また、作戦ボードで次にどのように動けば良いかをグループで話し合うことができていた。

●協議の様子

- 生徒A:パスが出せなくて困っていた。
- 生徒B:オフボールマンがずっとディフェンスの後ろにいる。
- 生徒C:シュートスペースを作るためにもっと動こう。
- 生徒D:ディフェンスの後ろから前に入る動きをしてみるね。
- 生徒E:パスをしたらすぐにスペースに走り込むね。

授業の一例(5/10時)

●本時のねらい

- ・空間を作り出す動きを理解できるようにする。
- ・チーム内で見合うことで、課題を見つけ、ポイントを仲間に伝えることができるようにする。また、話し合うことで課題解決をできるようにする。

●主な学習活動 ☆はICT活用

- ・基本練習(ドリブル)
- ・基本練習(シュート)
- ・3対2(ハーフコート) ☆動画を見ながら、動きを考える。
- ・3対2(オールコート) ☆動画を見ながら、動きを考える。
- ・本時の振り返り ☆Googleのクラスルーム内で提出する。



児童・生徒の声または教師の声

- ・自分たちの動きを視覚的に理解できるので、課題を見つけやすかった。(生徒)
- ・ICTを活用しつつ必要な運動量を確保していた。(教師)